

HPVワクチンアンケート報告(プレスメモ)

2020年5月吉日

大阪府保険医協会 産婦人科部会 部長 吉村 猛

保険医協会産婦人科部会は、HPV ワクチン問題の議論に会員の意識を反映させるため、2020年1月24日(金)に HPV ワクチンアンケートを実施した。

実施方法は、保険医協会会員情報より得られた標榜科目、内科(2447件)、精神科(291件)、外科(501件)、産婦人科(193件)、放射線科(7件)、小児科(174件)、整形外科(441件)、泌尿器科(105件)、その他(128件)にて登録されていた医療機関に対して、FAXにてアンケート用紙を送付し返信してもらうという方法をとった。

FAX 到達件数は 3682 件だった。ご協力いただいた 343 件(回収率 9.3%)についてまとめたので報告をする。グラフの「%」表示は、小数点第一位以下を四捨五入した数値。

アンケート結果の特徴

- ・ HPV ワクチンの積極的勧奨について、「中止が妥当でない」及び「再開すべき」とした割合がどちらも全体の 6 割を超えていた。
- ・ 9 価ワクチンの認可について、「認可してほしい」を選択した医師が 47%と要望が多かったものの、「わからない」の割合が 48%あり正確な情報を望む声があった。
- ・ 各標榜科目別に比べると、HPV ワクチンの積極的勧奨の再開、9 価ワクチンの認可について、産婦人科及び小児科は 8 割から 9 割が積極的な回答だったのに対して、内科、外科、整形外科及びその他標榜科目は消極的な回答で大きな隔たりがあった。

1. 返信者の年代

返信者の年代は、60代が136件と一番多く、次いで50代が103件、70代が45件だった。

| 年代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代 | 80代 | 90代 | NA |
|---------|-----|------|-------|-------|------|------|-----|-----|
| 計 343 件 | 4 件 | 32 件 | 103 件 | 136 件 | 45 件 | 14 件 | 2 件 | 7 件 |

2. 返信者の標榜科目について

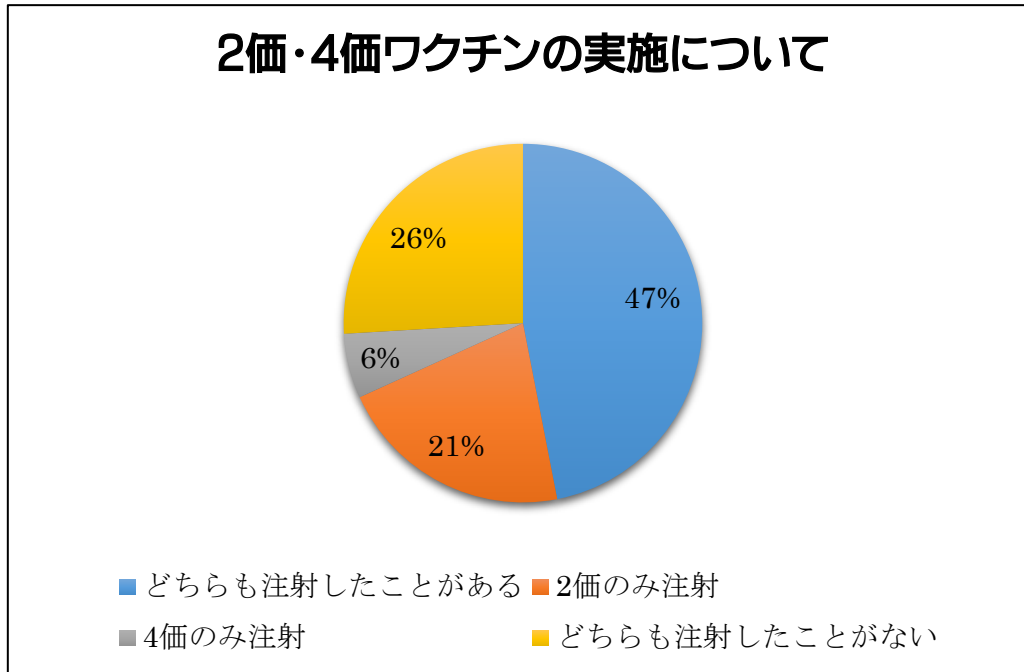
返信者の標榜科目は、内科が187件と一番多く、次いで小児科が59件、産婦人科が40件だった。各標榜科目別の返信率(対象者ベース)では、小児科が33.9%、産婦人科が20.7%、内科は7.6%となっており、標榜科目の違いによって関心度も異なることが明白となった。また、下表では、複数選択した返信者もいたので、便宜的に最初に表示されている標榜科についてカウントしている。

| 標榜科目 | 内科 | 小児科 | 産婦人科 | 外科・整外 | その他 | NA |
|---------|-------|------|------|-------|------|-----|
| 計 343 件 | 187 件 | 59 件 | 40 件 | 32 件 | 19 件 | 6 件 |

3. 2 価ワクチン(サーバリックス)及び 4 価ワクチン(ガーダシル)の実施について

2 価ワクチン及び 4 価ワクチンの注射実施について、どちらも「ある」を選択した返信者が161件と一番多く、全体の47%を占めた。2 番目に多かったのは、どちらも「ない」又は空白とした返信者で89件だった。89件の内訳は、内科54件、外科・整外その他25件、小児科6件、婦人科・産婦人科4件だった。

| 2価・4価ワクチンの実施について | どちらも注射したことがある | 2価のみ注射 | 4価のみ注射 | どちらも注射したことがない |
|------------------|---------------|--------|--------|---------------|
| 計 343 件 | 161 件 | 73 件 | 20 件 | 89 件 |



4. 副反応疑い患者の来院について

副反応疑い患者の来院について、「ある」としたのは33件で、「ない」とした309件より大幅に少なかった。副反応疑い患者の来院が「ある」とした33件の内訳は、内科が16件、小児科7件、産婦人科3件、外科整外・その他7件だった。

| 副反応疑い患者の来院について | ある | ない | NA |
|----------------|------|-------|-----|
| 計 343 件 | 33 件 | 309 件 | 1 件 |

5. 副反応疑い患者の来院があった33件のうち、被接種ワクチンの内訳について

副反応疑い患者の33件のうち、被接種ワクチンの内訳は2価ワクチンが21件、4価ワクチンが5件だった。日本での総出荷数(2018年8月時点)は2価ワクチンが約700万回接種分、4価ワクチンが約195万回接種分と大きな差があるので、今回のアンケート結果から各ワクチン間で特異な差があると結論づけることはできないが、2価ワクチンの方が多い結果となった。

| 副反応疑い患者の被接種ワクチンについて | 2価ワクチン | 4価ワクチン | どちらもあった | 空白又は不明 |
|---------------------|--------|--------|---------|--------|
| 計 33 件 | 21 件 | 5 件 | 3 件 | 4 件 |

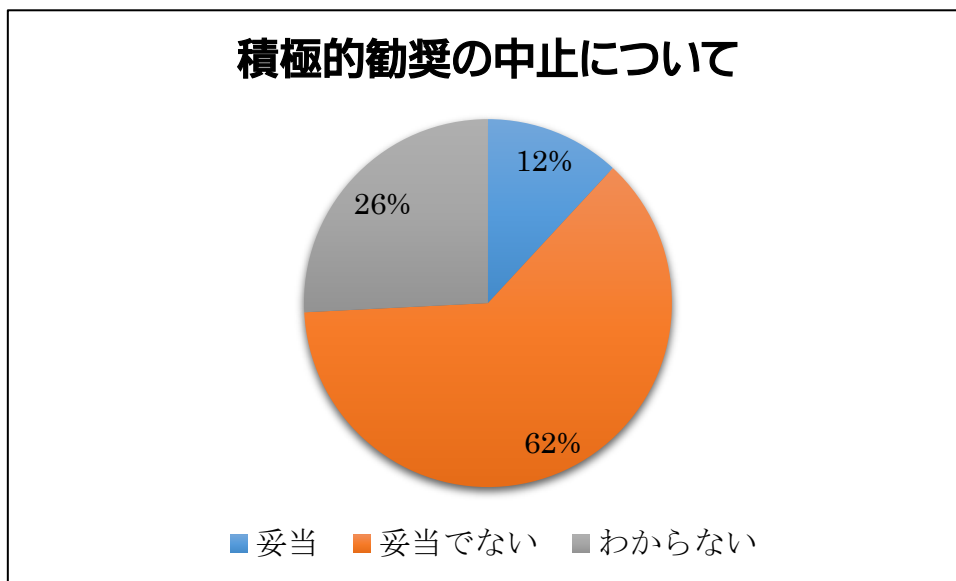
6. 積極的勧奨の中止について62%が「妥当でない」

積極的勧奨の中止については、「妥当でない」とした返信者が215件あり全体の62%を占めた。「妥当でないとした」返信者の意見では、「子宮頸がんのワクチンについて、接種することが全国的

に中止されるような雰囲気になってしまい、世の中では不安ばかり先走ってしまっている。デメリット(注射しないこと)をしっかり全国的に表明してほしいと思います」、「接種者の体調不良をすべてワクチンのせいにする姿勢は科学的でない。ワクチンの妥当性は日本以外の全世界で科学的に証明され、日本人だけ特異であるという極めて非科学的な印象だけでワクチン行政がゆがめられている」、「中止の間に注射されない人たちの不利益が増大している」といったものがあり、「妥当」とした意見では、「HPVにて副作用の起きた人は悲壮である。研究予算を計上して徹底的に研究すべき。製薬会社を庇う必要はないと思う。子宮頸がんの予防も分かりますが…」といった意見があった。

「妥当でない」及び「わからない」の両方を選択した返信が2件あった。下表ではそれぞれの項目でカウントしている。

| 積極的勧奨の中止について | 妥当 | 妥当でない | わからない |
|-----------------|------|-------|-------|
| 計 345 件(重複 2 件) | 41 件 | 215 件 | 89 件 |

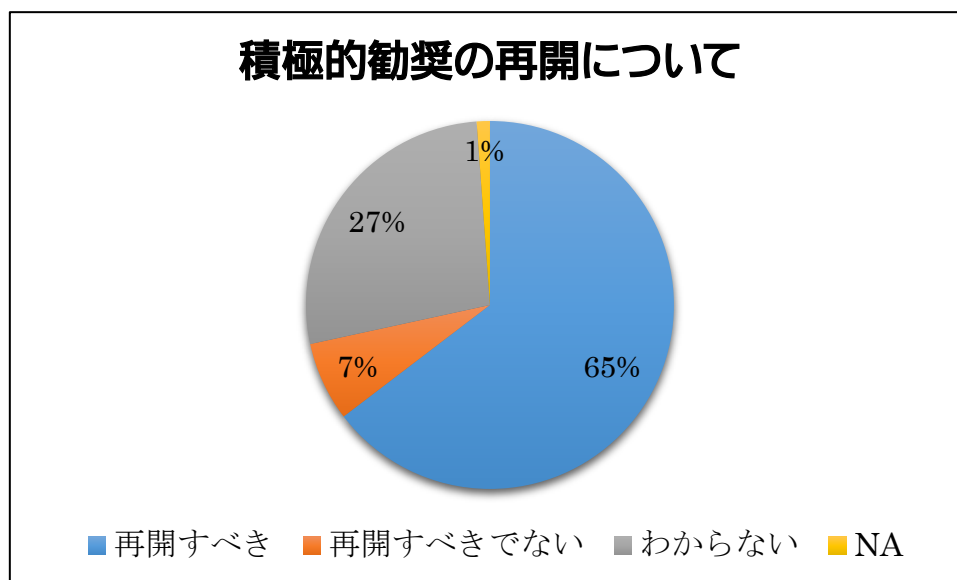


7. 積極的勧奨の再開について 65%が「再開すべき」

積極的勧奨の再開について、「再開すべき」としたのは223件で全体の65%を占めた。積極的勧奨の中止が「妥当でない」とした返信者が62%だったことも踏まえると、全体の6割超が現状のHPVワクチン行政のあり方に疑問を感じていることがわかった。「再開すべき」とした意見では、「不正確なメディアの報道と厚労省の不適切な対応によって接種機会を逃し将来子宮頸がんにならなくて済んだであろう多くの女性が罹患してしまう重大さを世の中に伝えたい。そして早々のワクチン接種率回復に尽力したいと考えています」、「このままでは将来、先進国の中で日本のみ子宮頸がんの増加が予測される。その場合の責任はだれがとるのか。積極的勧奨再開すべきと思う。」、「HPVワクチンはすぐに積極勧奨を再開すべきです。毎年三千人の女性の命を奪っています。アンチワクチン派の動きに負けてはいけません。できれば、接種年齢を下げ心因反応を減らす努力が必要です。男子もした方が良いでしょう」、「再開すべきではない」とした意見では、「少数でも副作用によるものか患者さんとの因果関係が不明である間は再開すべきではない」「積極的に接種していいものか専門外にはわからない事が多い。副作用や安全性の確認が第一である」といったものがあった。

「再開すべき」及び「わからない」の両方を選択した返信が2件あったため、下表ではそれぞれの項目でカウントしている。

| 積極的勧奨の再開について | 再開すべき | すべきでない | わからない | NA |
|-----------------|-------|--------|-------|-----|
| 計 345 件(重複 2 件) | 223 件 | 24 件 | 94 件 | 4 件 |



8. 9 価ワクチンの問い合わせ有無について

9 価ワクチンに関する問い合わせの有無については、「ある」とした返信者が 35 件に対して「ない」としたのは 308 件と大きな差があった。しかし、「ガーダシルを予約していた台湾人の患者さんに2年ほど前に今どきは 9 価が主流だといわれキャンセルされた。返品もままならず困っています。再び接種の方向なら 9 価が必要と考えます」といった意見があった。

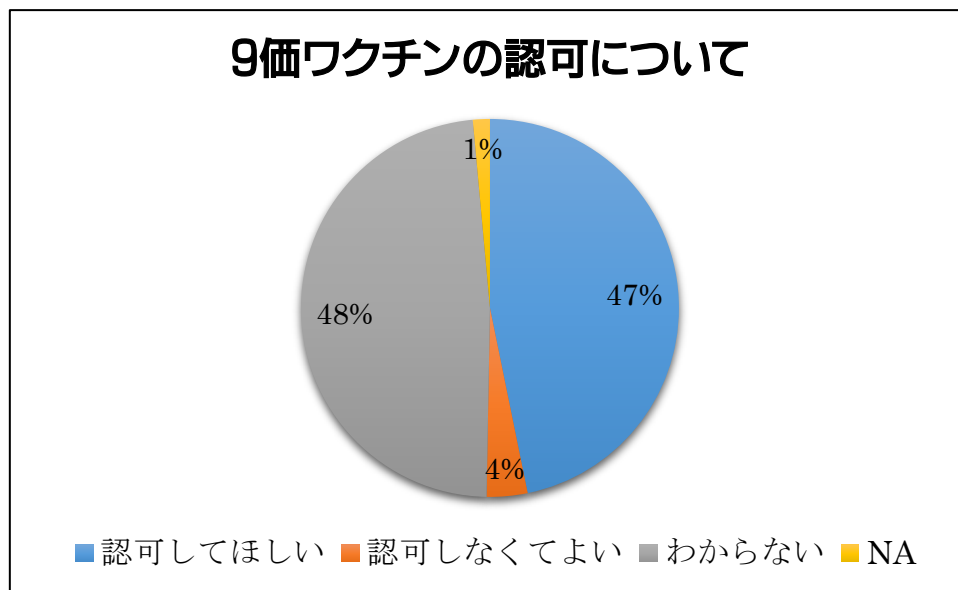
| 9 価ワクチンの問い合わせ有無について | ある | ない |
|---------------------|------|-------|
| 計 343 件 | 35 件 | 308 件 |

9. 9 価ワクチンの認可について「認可してほしい」と「わからない」が半々

9 価ワクチンの認可について、「認可してほしい」としたのは 161 件(約 47%)だったのに対して、「わからない」は 166 件(約 48%)だった。9 価ワクチンの認可について要望の声が多く、「9 価にして男児にも接種を勧める」、「9 価ワクチンを早く認可してほしい。4 価しかないのでこれで当クリニックは推奨しているが、正直、9 価だといいいのに」、「積極勧奨再開もですが、まずは 9 価ワクチンの認可をお願いしたいです。9 価なら接種したいという方もおられます。まずは接種者を増やし、国に積極的勧奨を求めてもよいのではないかと考えます」といった意見があった。その一方で、「わからない」を選択した返信者が約 48%いたことから、9 価ワクチンについて正確な情報提供を求める声があることもわかった。

「認可しなくてよい」及び「わからない」の両方を選択した返信が 1 件あった。下表ではそれぞれの項目でカウントしている。

| 9価ワクチンの認可について | 認可してほしい | 認可しなくてよい | わからない | NA |
|-----------------|---------|----------|-------|-----|
| 計 344 件(重複 1 件) | 161 件 | 12 件 | 166 件 | 5 件 |

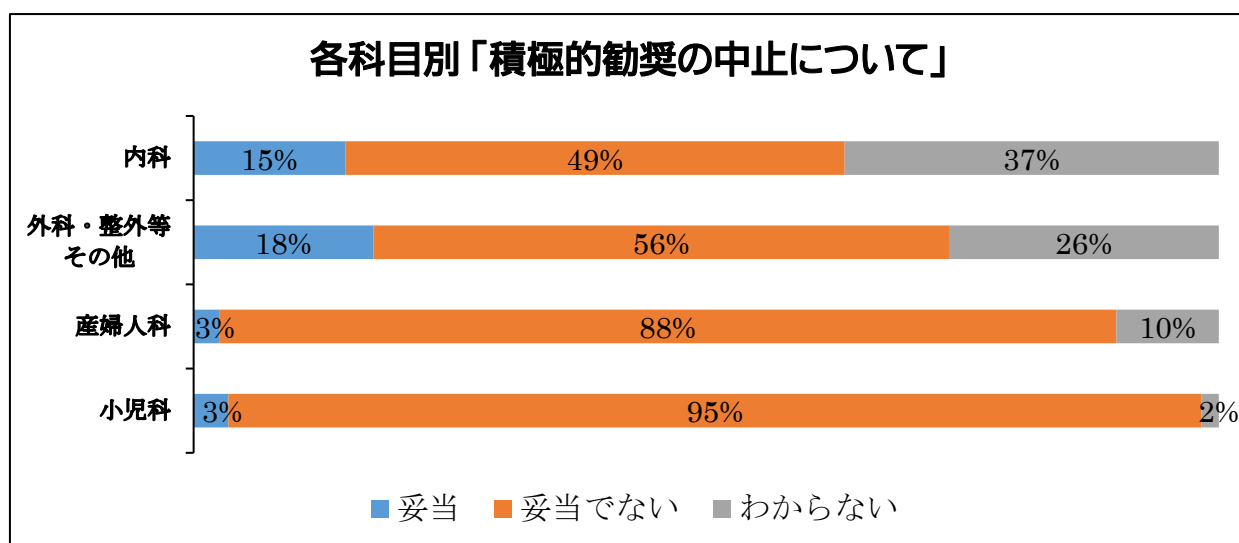


10. 各標榜科目別比較

(1) 「積極的勧奨の中止について」産婦人科及び小児科の約 90%が「妥当でない」

積極的勧奨の中止について各科目別にみると、全科目で共通して積極的勧奨の中止は「妥当でない」とした返信者が一番多かったものの、産婦人科では 88%、小児科では 95%が「妥当でない」としたのに対して、内科では 49%、外科・整外等その他では 56%にとどまっており、HPV ワクチンに対する副反応やエビデンスに対する理解の違いが浮き彫りになった。

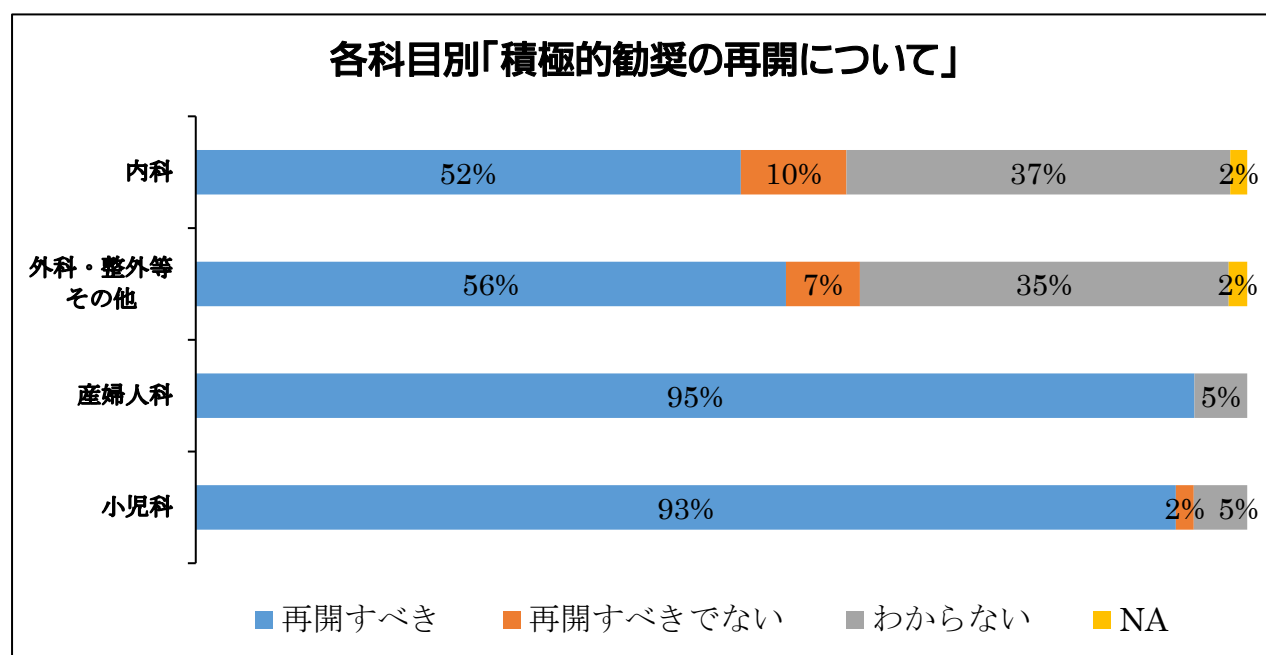
| 標榜科目 | 内科 (189 件, 重複 2 件) | 外科・整外 その他 (57 件) | 産婦人科 (40 件) | 小児科 (59 件) |
|-------|-----------------------|---------------------|-------------|------------|
| 妥当 | 28 件 | 10 件 | 1 件 | 2 件 |
| 妥当でない | 92 件 | 32 件 | 35 件 | 56 件 |
| わからない | 69 件 | 15 件 | 4 件 | 1 件 |



(2) 「積極的勧奨の再開について」産婦人科及び小児科の90%超が「再開すべき」

積極的勧奨の再開について、「再開すべき」とした返信者は、全科目共通して半数以上いたが、産婦人科では95%、小児科では93%だったのに対して、内科では52%、外科・整外その他では56%にとどまっている。そして、「わからない」を選択した割合も産婦人科及び小児科は5%だったのに対して、それ以外の科目では約37%と大きな差があった。また、「再開すべきでない」とした返信者が産婦人科では0件、小児科では1件と非常に少なかったことも特徴である。これらのことから、産婦人科及び小児科では、HPV ワクチン接種対象者を診療することが多いことから HPV ワクチンに対する問題意識があり、それに対する情報収集をして自身の立場を明確にできるだけの根拠を持っていること、産婦人科及び小児科以外の標榜科目では、自身の立場を明確にできるだけの情報がなく、副反応疑いに対する強い懸念があるのではないかということが推測される。

| 標榜科目 | 内科 (189件, 重複2件) | 外科・整形 その他(57件) | 産婦人科 (40件) | 小児科 (59件) |
|----------|--------------------|-------------------|---------------|--------------|
| 再開すべき | 98件 | 32件 | 38件 | 55件 |
| 再開すべきでない | 19件 | 4件 | 0件 | 1件 |
| わからない | 69件 | 20件 | 2件 | 3件 |
| NA | 3件 | 1件 | 0件 | 0件 |

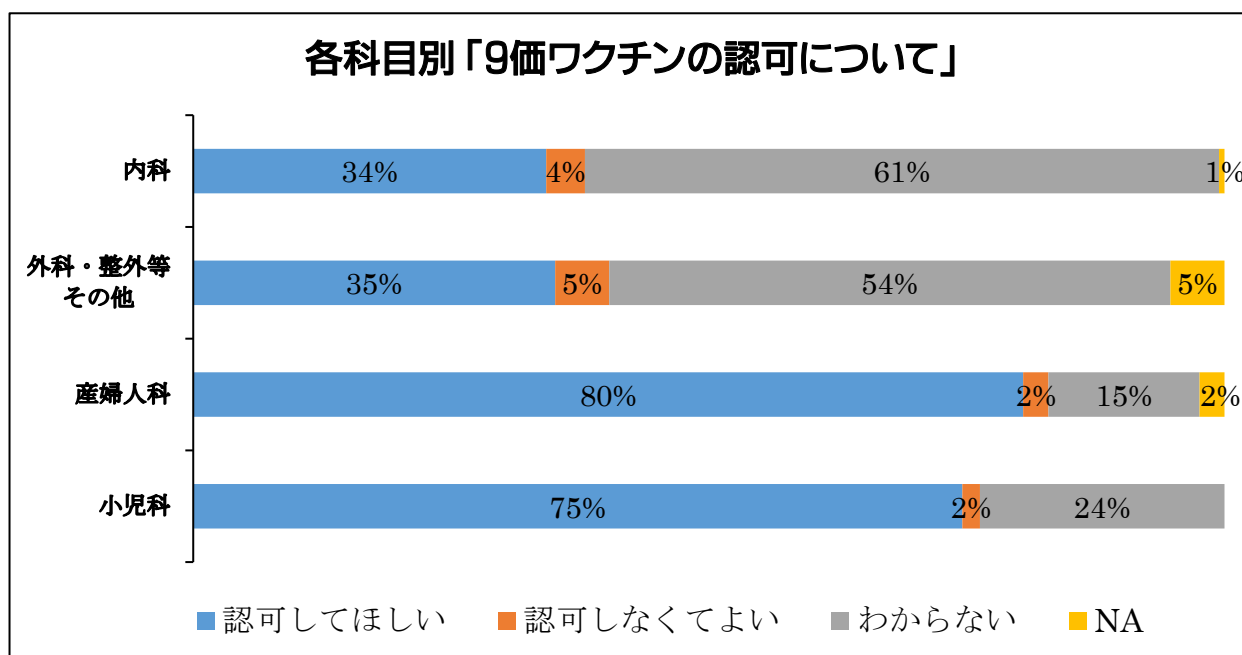


(3) 「9価ワクチンの認可について」産婦人科及び小児科の約80%が「認可してほしい」

9価ワクチンの認可について、「認可すべき」とした割合は、産婦人科では80%、小児科では75%だったのに対して、内科及び外科・整外その他の科目では約35%と大きな差があった。そして、「わからない」とした割合は、産婦人科では15%、小児科では24%と少数だったのに対して、内科では61%、外科・整外等その他の科目では54%と半数以上だった。

これらのことから、積極的勧奨の再開と同様に、産婦人科及び小児科ではHPV ワクチン接種対象者を診療することが多く、HPV ワクチンに対する問題意識があり、9 価ワクチンに対する自身の立場を明確にできるだけの根拠を持っていること、産婦人科及び小児科以外の標榜科目では、9 価ワクチンに関する情報を取得する機会が少ないことが推測される。

| 標榜科目 | 内科 (187 件) | 外科・整外等 その他 (57 件) | 産婦人科 (41 件, 重複 1 件) | 小児科 (59 件) |
|----------|------------|----------------------|------------------------|------------|
| 認可してほしい | 64 件 | 20 件 | 33 件 | 44 件 |
| 認可しなくてよい | 7 件 | 3 件 | 1 件 | 1 件 |
| わからない | 115 件 | 31 件 | 6 件 | 14 件 |
| NA | 1 件 | 3 件 | 1 件 | 0 件 |



11. 主な意見

・積極的勧奨を再開すべきとした返信者の主な意見

| | | |
|------|----|--|
| 60 代 | 内科 | 結局、マスコミと裁判に対する影響、被害者といわれている人への対応が問題とされます。医学的には全く疑う余地はなくなっていると思います。 |
| 50 代 | 内科 | イデオロギー論争になっており、医師同士、学者だけの検討会では結果が決められない。政治的判断が必要。 |
| 50 代 | 内科 | 接種時の痛みがかなりあるので、接種年数(公費での)を引き上げても良いかと思えます(20 歳くらいまでに) |
| 30 代 | 内科 | 根拠のない批判はやめてほしい。全員うつべき。 |
| 50 代 | 内科 | 日本では有効性よりも副作用の方が過剰に報道されていて、それが HPV ワクチン接種の妨げになっている。もっと有効性をアピールするべきである。 |
| 80 代 | 内科 | 接種反対の方達のまとまった意見が聞きたい。子宮頸がんになった方たちの意見が聞きたい。 |

| | | |
|-----|----------------|--|
| 50代 | 内科 | 海外では男児に対する接種も始まっている。早く再開すべき！！ |
| 60代 | 内科 | 中止の間に注射されない人たちの不利益が増大している。 |
| 60代 | 内科 産婦 人科 | 現診療において、CIN1~2 やコンジローマの罹患者が増加している。今後も子宮頸がん患者が増加してくる可能性は高い。HPVワクチンで希望される方が最近時々来院されるほどもっと多くの方への注射が必要と考える。 |
| 60代 | 内科 | 早く積極的に接種推奨をしりたい。9価ワクチンも認可をすすめて欲しい。 |
| 60代 | 内科 | 積極勧奨があった時にHPVワクチン接種を受けた患者の経過(特に癌・前癌状態の予防効果)を明らかにしてほしい |
| 50代 | 内科 | 子宮頸がんの実態を数値にして、一般に知らせる必要がある |
| 60代 | 内科 | 筋注をあまりしたことのない医者が針を深く入れすぎ、骨膜近くで接種したために起こった！！事実、外国では問題になっていない！！ |
| 50代 | 内科 | 副反応を経験したことがないので、必要なワクチンだと考えています。ご両親が納得された中学生に現在も接種しています |
| 50代 | 内科 | 勤務医。①先日の講演を聞き、質問があったときに消極的から積極的に接種を勧めるようになりました。とてもよくわかり考えを変えるきっかけとなりました。痛みが残ったり、多彩な神経症状は「相談できるところがある」という対応で納得できました。けれども、注射直後にパタンと倒れる子などへのその場での対応があいまいと感じましたので対応法が決まっていればさらに安心だと思いました。 ②同年代の男子も接種すればいいと思います。 |
| 50代 | 内科 | 100%副反応のないワクチンはありません。子宮頸がんの発症リスクと天秤にかければワクチンを行う方がベターである。ただし、副反応の対応は充分になされるべき。(現在問題になっている症状は副反応と考えるべきかという点にも疑問はあるが) |
| 50代 | 内科 | マスメディアのミスリードと日本人の国民性による問題点が前面に出た由々しき問題と考えています。 |
| 70代 | 産婦 人科 | HPVの感染を考えると、男女ともワクチン接種すべきと考える。 |
| 60代 | 婦人科 | まずは9価ワクチンの早期認可 |
| 40代 | 婦人科 | 子宮頸がんのワクチンについて、接種することが全国的に中止されるような雰囲気になってしまい、世の中では不安ばかり先走ってしまっている。デメリット(注射しないこと)をしっかり全国的に表明してほしいと思います。 |
| 40代 | 産婦 人科 | 不正確なメディアの報道と厚労省の不適切な対応によって接種機会を逃し将来子宮頸がんにならなくて済んだであろう多くの女性が罹患してしまう重大さを世の中に伝えたい。そして早々のワクチン接種率回復に尽力したいと考えています。 |
| 60代 | 産婦 人科 | 頸がんが増加している印象、何らかの対策が必要 |
| 60代 | 婦人科 | 厚労省及び政府は政治的損得にとらわれず、科学的根拠をもって積極勧奨の再開を検討すべきだと思う。 |
| 80代 | 産婦 | (A) 国や行政が逃げ腰の医療行為を積極的にはできません。 |

| | | |
|-----|-----|--|
| | 人科 | (B) 日本でのみ不信感に基づくと思われるような多くの副作用が発生した理由の一つに、若い女性とその随伴者(母親)の不安や質問(HPV ワクチンの必要性、医学的意義、副反応など)に納得しうる解答を与えることができない Doctor が存在したのではないかと危惧しています。「婦人科じゃないから知らん」と言われたとか、「皮下ではなく筋内内注の事」を全く認識していない Doctor の存在を複数聞いています。 |
| 60代 | 小児科 | 自治体の感染対策課の担当の方々に子宮頸がんワクチンの必要性和安全性をレクチャーしましたが厚労省が承諾しないとアクションできないということでした。また小学校・中学校での講演についても教育委員会の許可がないと講演させてもらえないということで、まずは地元の公民会をお借りして思春期の保護者対象に講演する予定です。 |
| 60代 | 小児科 | このままでは将来、先進国の中で日本のみ子宮頸がんの増加が予測される。その場合の責任はだれがとるのか。積極的勧奨再開すべきと思う。 |
| 60代 | 小児科 | 接種者の体調不良をすべてワクチンのせいにする姿勢は科学的でない。ワクチンの妥当性は日本以外の全世界で科学的に証明され、日本人だけ特異であるという極めて非科学的な印象だけでワクチン行政がゆがめられている。 |
| 60代 | 小児科 | 将来子宮頸がんの増加が予想されています。この責任は誰がとるのでしょ |
| 60代 | 小児科 | HPV ワクチンはすぐに積極勧奨を再開すべきです。毎年三千人の女性の命を奪っています。アンチワクチン派の動きに負けてはいけません。できれば、接種年齢を下げ心因反応を減らす努力が必要です。男子もした方が良いでしょう。 |
| 50代 | 小児科 | 自分の子供たちには打った。本来打つべき子供たちが打てないのはかわいそうである。 |
| 60代 | 小児科 | 早く再開すべきであるし、接種を控えていて年齢を超えた方にも公費を認めるべき。9 価にして男児にも接種を勧める |
| 60代 | 小児科 | 利点、欠点(副作用を含む)をわかりやすく説明する必要があると思います。欠点を補って余りある益を得られることを具体的に示すことが大切ではないかと考えます。 |
| 50代 | 小児科 | 早くマスメディアを通じて正確な情報を国民に知らせてほしいです。なかなか学会経由では国民にうまく伝わることができず広まらないと思います。 |
| 60代 | 小児科 | HPVワクチンの接種方法について、製薬会社又は自治体での講習会を行い、許可証(修了証)を与えた医師のみ注射するようにすればよいのでは |
| 60代 | 小児科 | 保団連や民医連がHPVワクチンに対して正しい科学的評価をしていないことに強い不満を感じている。 |
| 60代 | 小児科 | HPVワクチンによる子宮頸がん年間 3000 人が死亡、性感染症も増加している。現状を憂慮すると、ワクチンで予防できる疾病は予防接種をするVPD運動に反する行為である。学会での子宮頸がんワクチンの講演は有意義である |
| 50代 | 小児科 | 積極勧奨再開もですが、まずは 9 価ワクチンの認可をお願いしたいです。9 価なら接種したいという方もおられます。まずは接種者を増やし、国に積極的勧奨を求めてもよいのではないかと考えます。 |
| 70代 | 小児科 | 世界的レベルからいけば、その他のワクチン(MMR)等にしても何かあれば中止、インフルエンザワクチンも1度止めればそのまま、HPVは他の国々のデータを見て早期に対応すべき |

| | | |
|-----|-----|---|
| 50代 | 小児科 | 9価ワクチンを早く認可してほしい。4価しかないのでこれで当クリニックは推奨しているが、正直、9価だといいのに。議論はあるが積極勧奨中止は論外です。子宮頸がんによる被害者がもっと増えることを考えてほしいと思いながら推奨しています。 |
| 60代 | 小児科 | 副反応の喧伝のみマスコミに取り上げられているが、頸がんの実態を示し、正しく理解して比較するような記事や保険者の実体も周知してもらいたい。 外来でも幼児を残して20~30歳の母親が亡くなるという事実、無念さを経験している。 |
| 50代 | 小児科 | ①至急再開すべき。特に9価ワクチンを ②男性にも積極的に投与する計画を(中咽頭がん、食道がん、気管支がん、肛門がん、陰茎がん) |
| 60代 | その他 | 副反応に対して国が安全保証を行うこととして、再開しなければならないと思います。男性への治験が終了しておりますので、そちらの認可を進めても良いと考えます。 |
| 60代 | 整形 | 世界でみても日本は取り残されていると思います。救える子宮がたくさんあるのに、非常にもったいないと思います。 |
| 40代 | 整形 | 産婦人科学会とWHOから出されている勧告、要望を重く受け止めています。女兒のみでなく、男児への定期接種も望みます。 |
| 80代 | その他 | 副作用が出た時に、「小児の疼痛性疾患」で安心に受診できる場所が必要。 |
| 50代 | その他 | 若くても子宮頸がんが子供が産めなくなる女性を救済するためにもぜひ再開すべきである。副反応も一時的、軽度なケースがほとんどで世界の趨勢にも倣うべきである。 |
| 50代 | その他 | 副反応疑い接種ワクチンは不明。副反応が重篤になったときはCRPS(複合性局所疼痛症候群)として保険診療をすればいいと思う。 |
| 70代 | 整形 | 否定的な報道をしてきたマスコミは謝罪、訂正報道をすべきだ。 |
| 60代 | 整形 | HPVワクチンにより後遺障害が発生したと受け取れるような報道が繰り返されているが、全く無責任な報道である。厚労省は、調査に基づいた安全宣言を発表し、速やかにHPVワクチンの積極的勧奨を行うべきである。 |
| 60代 | | 若年の子宮頸がん及び前がん病変が増えているので、早く積極的勧奨を再開してほしいです。(日本産科婦人科学会は声明を出しています) |
| 60代 | | がんを予防できる可能性のあるワクチンという価値あるもので、全世界的にも認められていることから再開し、みなぎ安心してうけられるようになると良いと考えております。ただ、安全だと声高に発言すると、被害者といわれる女性たちがウソを言っているのか、と反論されかねないので私たちは積極的に声を上げられないで困っております。 |

・積極的勧奨の再開をすべきでないとした返信者の主な意見

| | | |
|-----|----|--|
| 60代 | 内科 | 少数でも副作用によるものか患者さんとの因果関係が不明である間は再開すべきではない。 |
| | 内科 | HPVにて副作用の起きた人は悲壮である。研究予算を計上して徹底的に研究すべき。製薬会社を庇う必要はないと思う。子宮頸がんの予防も分かりますが…。 |
| 50代 | 内科 | サーバリックス注射直後に気分が悪くなった人がいました。副反応と思われる症状の発生機序がわからないままなら対応のしようがないので、再開しない方がいい。ガーダシル9の安全性についての情報がほしい。ワクチンをうっても健診が必要ならワクチンをうつ必 |

| | | |
|-----|----------|---|
| | | 要はないと思います。 |
| 60代 | 内科 | 安全性が日本人の集団において(10000以上)、確立できたら許可すればよい。目下不用。他のワクチン(インフルエンザ等)無料にすべきです。 |
| 60代 | 内科 | もともと中止になった医学的根拠が不明。不明なまま風評被害的に接種希望者が0になった。風評被害が出る前年は年間100人来た。再開するのであれば、テレビ・インターネットなどを通じて国が積極的に説明すべき。肺炎球菌予防接種希望者も激減している。宣伝不足が否めない。 |
| 70代 | 内科 | 副反応疑いの来院はないが、母が別の用事で来院した時に言っていた言葉は、「夕方に注射して翌朝は注射した腕が痛くて全く上げれなかった」とのこと。 腕の太いアメリカ人での実績を無検討のまま、政治家が裏で関与して導入されたものしか考えられない。筋注でなくて皮下注で可能なはずだし、液の量も日本人には多すぎる。 |
| 40代 | 小児科 | 副反応で後遺症がある例についての説明がはっきりしていない時は(けいれんなど)、再開すべきでないと思います。筋肉注射は痛い為恐怖心が児に強くあり、過度の緊張による失神を起こすことがあり、再開ならば皮下注にすべきと思います。尚、筋注に慣れていない先生が行くと、骨にやせ方の児には針が当たったりする為、痛みが持続することも心配されます。後遺症を承諾させて行うこと自体現状では難しいと思います。 |
| 70代 | 外科 整形 | これだけ副作用が出て多くの子供が後遺症で苦しんでいる時に協会は弱者の立場に立つべき。医師会、学会、製薬企業を擁護すべきでない。 |

・積極的勧奨の再開について「わからない」又は空白とした返信者の主な意見

| | | |
|-----|----------|--|
| 60代 | 内科 | 副反応で生涯にわたって残るような障害が何例かあって、それがHPVワクチンの影響ではないとはっきり判断できない限り、勧奨しにくいです。被害者の方々のことを考えると新たな被害者をこれ以上出すわけにはいかないという気持ちです。 |
| 80代 | 内科 | 来院時は15分以上の安静後体温測定、全身の健康状態をよく診察して異常を認めない時のみ注射をしましたので副反応者は1人もなかった。 |
| 70代 | 内科 | 幸いに当院では、接種人数は少なかったですが、テレビで報道されている様ないつまでも痛みの残る症例はなかったですが、注射当日直後に気分不良など、訴える患者数例あり。苦慮しました。 |
| 50代 | 内科 | 積極的に接種していいものか専門外にはわからない事が多い。副作用や安全性の確認が第一である。 |
| | 内科 | 推進派は国際基準の話ばかりし副作用に目を向けず、慎重派はワクチン中止に伴う子宮頸がん対策の話はされず、バランスの取れたお話がほとんど行われなため判断困難というのが現状です。 |
| 70代 | 内科 小児 | 専門医(婦人科)が対応したらよいと考えます。一般内科医としては取り組みにくいと考えています。 |
| 70代 | 内科 | 治療ではないので、あえてすすめることをしなくてよいと考えます。 |
| 50代 | 内科 | 何が正しい情報か分からないので信じられる指針がなく決められない。必要で有効なら再開必要。男性がHPVを女性に移すので男性もうつべきではと思う。 |

| | | |
|-----|-----------|---|
| 50代 | 内科 | 最終的には患者及び保護者が決定すればよい。希望があれば接種する予定 |
| 60代 | 内科 | HPV ワクチンを接種した女性が 40～50 歳になったとき、その年齢層の方の子宮頸がんが明かに減少していれば良いのですが…。壮大な実験をしたのではないのでしょうか。あと何年もすれば効果がわかるでしょう。 |
| 60代 | 内科 | 子宮頸がん予防効果があると聞いているが、正しい情報がこちらに入っているとは思えないので、よく分からないのが本音です |
| 70代 | 内科 | 副作用の原因究明をしてくださる一方、多数の人々が予防接種を受けて下さる方がよいのではないかと考えています。 万一副作用が出た場合は、リハビリ、加療等早期に対策をうってほしい。 |
| 60代 | 内科 | 正確な情報が欲しい |
| 40代 | 内科 | HPVによる子宮頸がんの発症が抑制されるのであれば、副反応の啓蒙も含めきっちり活動すべき。若い子供の不利益にならないことを願います。 |
| 60代 | 内科 | 副作用救済制度を見直すべき |
| 60代 | 内科 | アジュバンドの長期的な副作用の問題など明らかにしてから再開すべきと思います。 |
| 50代 | 内科 | 積極勧奨の再開は過去の件から社会的に受け入れられないと思います。 国レベルで疾患を抑えていくには、腰だけになることのない強い覚悟が必要です。マスコミに騒がれて接種対象者が不安に陥らないように万全の対策の上で実施を考えてください。 |
| 60代 | 内科 婦人科 | ガーダシルを予約していた台湾人の患者さんに2年ほど前に今どきは9価が主流だといわれキャンセルされた。返品もままならず困っています。再び接種の方向なら9価が必要と考えます。 |
| 70代 | 内科 小児科 | HPV ワクチンについて勉強不足と感じます。もっと HPV ワクチンの必要性、安全性を説明することが大事だと思います。被接種者が安心・安全で受けることでしょう。 |
| 50代 | 内科 | 専門外でもあり、世間の評価に逆らって患者さんに積極的に進めようとは思わない。 |
| 50代 | 産婦 人科 | 報道されている重篤な副作用はワクチンと関係ないとは言い切れない。HPV ワクチンには強力なアジュバンド(免疫活性剤)が含まれている。今後アジュバンドのないワクチンの開発を希望する。 |
| 50代 | 小児科 | 副反応が本当にワクチンと無関係であることが学術的に証明されない限り、再開は困難と思います。それはとても不幸なことでありますが… |
| 70代 | 外科 | 若い世代を子宮頸がんから守ることの重要性を考えれば、HPV ワクチンは必要と思います。ただし、重篤な副反応の出現率を考えれば積極勧奨再開すべきか判断に迷うところです。海外で問題なくても人種差はあるかもしれません。 |

取扱団体：大阪府保険医協会 産婦人科部会 担当事務局(吉田/平井)
大阪府浪速区幸町 1-2-33 TEL 06-6568-7721、FAX 06-6568-2389